

第5章 湖西市が目指す将来像

第5章 湖西市が目指す将来像

第1節 将来像

本市の文化財は、^{はま な こ}浜名湖と^{こ さいれんぼう}湖西連峰の豊かな自然環境に育まれました。普段は意識することはありませんが、私たちは生活や信仰において多くの文化財と関わりを持っています。また、文化財を生涯学習に活かすことで郷土愛を育むとともに、観光産業にも役立ててきました。

これが可能なのは、先人が文化財を大切に守り、次世代につないできたからです。未来の湖西市民が文化財の恵みを享受できるよう、現代を生きる私たちも次世代へ文化財を確実に継承していかなければなりません。

上記を踏まえ、本計画では「湖西市が目指す将来像」を下記の通り定めます。そして、この将来像を実現するための取組を着実に実施します。

【将来像】

浜名湖と湖西連峰に育まれた文化財が次世代に続くまち



第2節 保存・活用の方向性

前節で定めた将来像を達成するためには、文化財の保存・活用に関する取組を計画的に進めていく必要があります。そこで、「知る」、「守る」、「活かし、伝える」という3つの方向性を定め、これらに沿う取組を実施します。

① 知る

文化財を次世代へつないでいくためには、本市にどのような文化財があり、それぞれにどのような価値があるのかを知らなければなりません。調査を通して文化財について知り、地域の宝として掘りおこすための取組を計画的に進めるために、「知る」という方向性を定めます。

② 守る

文化財を次世代につないでいくためには、文化財について知ったうえで、絶えず保存のための取組を続けていく必要があります。文化財を確実に保存し、未来へつなげるための取組を計画的に進めるために、「守る」という方向性を定めます。

③ 活かし、伝える

文化財を次世代へつないでいくためには、市民一人一人が文化財の魅力や価値について知る必要があります。文化財を地域活性化の取組に活かし、その価値や魅力を広く伝え、文化財のことを「知りたい」、「守りたい」という気持ちを育むために、「活かし、伝える」という方向性を定めます。

